

分野	No.	意見等要旨	両市町の考え方
医療	1	○全国的に救急医療の崩壊により、病院の閉鎖、診療科の閉鎖、医師の引き上げが盛んに行われている。医療機関、自治体、住民の全てが一体とならなければ、救急医療や日常の医療を継続的に安定させることはできないし、向上させることもできない。【第1回・第3回】藤永委員	○救急医療体制は、繊細なバランスの上に成り立っていることは十分に認識している。今年度からは、長年の懸案事項であった斜網地域の救急搬送体制の整備と、関係自治体による財政負担について網走医師会と合意に至った。 ○医療体制を安定して継続させるためには、救急医療を支えてきた医療従事者の使命感だけに頼ることなく、地域住民と医療機関・行政（消防を含む）が情報を共有し、緊密な連携を持つことが重要で、限られた医療資源の中で、共に支え合い、協力しなければ医療崩壊を防ぐことができない。そのため、ふれあいトークや広報等により適正な救急医療の受診や救急車の利用について周知を行っている。また、網走地域自治体病院等広域化・連携構想検討会議が主催する「斜網地域の救急医療を考える住民の集い」の継続した開催などを通じて、住民と関係機関が一堂に会して適正な受診のあり方を確認し合う機会を設けている。
	2	○大学病院から派遣された医師の定着を図るためには、医師にとって住み甲斐のある、魅力あるまちであることが重要。医師の定着が、地域医療の充実に繋がっていく。【第1回】藤永委員	○保健事業の推進等により健康な住民が増え、適正受診が浸透して医療従事者との良好な関係が築かれていることで、医療従事者が働きがいのあるまちとなり、誰もが安心できる医療体制が整えられるなど、住み良いまちづくりに一層努力していく。 そのために、地域医療や療育などの問題を医療・行政・市民が共に理解し、課題解決へ向けた協働につながるまなびの機会を提供する。
	3	○東藻琴地域は、救急搬送体制は網走地区消防組合で、医療体制は美幌医師会というような歪な形の中で、住民は大変な思いをしている。【第2回】深川委員	○今年度、長年の懸案事項であった斜網地域の救急搬送体制の整備と、関係自治体による財政負担について網走医師会と合意に至り、救急医療体制が確立された。
	4	○救急医療や病院に対する住民（患者）の要望や不満は行政に届いているはずなのに、医師会や病院に対して行政からは何も言っていない。病院はそれを聞きたいと思っている。【第3回】藤永委員	○医療機関では、メディカルコーチングにより患者の「納得・安心・満足」を満たすための取り組みを行っていると感じている。一般的に医療機関に対して不安をもつのは、信頼を裏切られたとき（医療技術や看護技術等の専門分野）、期待した医療や説明が受けられないと感じたとき（十分な説明のある対応力）、自分が大切に接してもらえないと感じたとき（共感ある対応力）と言われている。 ○市町村は医療機関への行政指導等を行える立場になく、保健所が所管する事項となっている。このため、網走市では市長の手紙などを通じて行政へ寄せられた市民からの要望や苦情などは、網走医師会を通じて各医療機関へお伝えし、医療機関全体の課題として、改善に向けた取り組みにつながるよう協力を要請している。また、大空町では女満別中央病院との定例の意見交換会や、通常業務の打合せ等で住民の意見をお伝えしている。
広域観光	5	○女満別空港を核とした国内外の観光客を誘致する努力を続けていかなければ、地域の観光資源は続かないだろう。【第1回】渡辺委員	○女満別空港を核とした観光客誘致は、オホーツク観光の根幹と考える。現在まで、国内線は女満別空港利用促進協議会（事務局：大空町）、国際線は女満別空港国際チャーター便誘致協議会（事務局：網走市）が中心となり航空機の誘致を進めており、今後も継続的な取り組みが必要を考える。
	6	○広域観光に向けて、どのような観光資源ができるかが課題であり、両市町の観光協会が連携しながら考えてみてはどうか。【第1回】深川委員	○少子高齢社会に突入し人口が減少傾向にある現在、観光地における宿泊数を維持するためには観光客の地域への滞在時間を長くする取組が必要がある。そのためには、これまでの単独市町村による取組・素材だけでは限界があり、各地域の取組等を有機的に連結させて各々の素材をブラッシュアップした新たな観光素材の創造が必要である。そのためには、両市町の連携は必要である。
	7	○空港ビル使用料を払えずに、テナントが退去するケースが結構ある。空港ビルと駐車場の使用料が高いのもっと安くして、多くの人に利用してもらい、地元住民も楽しめるような空港にしたい。【第2回】河西委員 ○大空町は空港ビル棟に対し「空港賑わいづくり事業」の補助金を支出。【第2回】事務局	○空港ビル棟に対して「空港賑わいづくり補助金」を支出している。 ○また、駐車場無料時間を30分から1時間に変更し利用促進に努めている。今後も継続した取組が必要だが両市町の連携について検討する。
	8	○空港のPRも大切だが、基本的には観光資源の核になるものをアピールして、肉付けしていくことが大事。如何に人を誘致するかが一番の課題。【第2回】深川委員	○地域の魅力と女満別空港利用率は連動するものと考えられる。地域の素材を磨くことが大切。地域素材を連携させ、各素材の魅力を向上させる必要がある。
	9	○地域の人暮らしやすければ、それが形となって観光になっていくことが一番望ましい。 ○将来北方四島が世界的な観光資源になった場合、道東の「ゆるやかな田園風景、農村景観」が重要になってくる。行政側が報奨制度により、建物の壁や屋根の色を指定する取組ができれば、きれいな農村景観づくりを進められるのではないかと。【第2回】加藤委員	○両市町には、風光明媚な農村景観や花園があり、それを連携させてPRすることで、地域のイメージがより鮮明になり、観光地としてのグレードが向上すると考えられる。既存する建物の統一は簡単ではないと考えられ、廃墟となった建物等の整理は必要だが、所有権等の問題もある。清里町に条例があるので法的な部分の推移を見ながら今後研究する。
	10	○高くてもわざわざ行ってみたい、最終的に住みたいとなるには、観光と環境が同じでなければならない。 ○環境教育が凄く大事で、利害関係が云々ではなく、地域全体の質・レベルを高くしていかなければ、観光はおぼつかなくなる。【第2回】加藤委員	○地域環境の維持・整備については、地域の魅力を向上させるためにも、さらには魅力ある観光地をつくるにも、必要であると考えられる。
	11	○造る観光と守る観光では捉え方にギャップがある。その辺りをうまく共存共栄できるようなビジョンがあって、リーダーシップをとってくれるところがあれば、他の組織も追随していけることはある。【第3回】深川委員	○オホーツク地域の魅力は、雄大な自然環境や景観がベースとなるが、近年の観光需要は、体験・学習を伴うものに移行している。そのため、本地域では豊かな自然景観を活用した新たな観光素材の創造についても検討する必要があるのではないかと考えており、両市町の情報をさらに共有する中で連携を図る。
	12	○網走湖は素晴らしい湖なのに、生活の中で利用されていない。観光からも少しはずれている感じがする。 ○ただ自然を見せる通過型の観光ではリピーターも限られてくる。観光客を引き留めるには、網走川のサケ・マス捕獲堰（ウライ）でサケを捕っている様子やトラクターでビートを収穫する様子など、自然に溶け込んで生活している風景を見せるのも観光になる。【第3回】藤永委員	○オホーツク地域は、農業、漁業が盛んな地域であり、これらを見せる「産業観光」は、体験・学習観光として発展する可能性を持っている。しかしながら、他の地域においても同様な取組が進められていることから、単なる収穫体験等だけではなく、長期観光等を視野に入れた新たな「観光産業」の模索等が必要である。北の新大陸発見！あったか網走、ワカサギ釣り体験、ワカサギ曳き網漁見学体験等、色々な取組を進めているが、今後さらに研究していく。

網走市大空町定住自立圏共生ビジョン懇談会「意見等要旨及び考え方」

分野	No.	意見等要旨	両市町の考え方
教育	13	○スポトレの子供用施設は規模が小さい。教育、文化、芸術を総合的につながっていきけるような整備をしていく必要がある。【第2回】首野委員	○スポトレは、当地域の気象条件、自然環境、交通アクセス等地域の特性を活かした「人づくり・まちづくり」の一環として、市民のスポーツ振興並びにスポーツ合宿の需要に応えられるよう整備したものである。
	14	○網走市の社会教育施設には、美術館や博物館もあるので、これらの分野も具体的取組に入ってきて良いのではないかと。【第2回】松井副座長	○両施設とも郷土の歴史・文化・芸術を保存し次世代に受け継ぐとともに、文化・歴史の学習や美術芸術活動の活性化に資するものであるが、両市町の情報提供を行い、郷土オホーツクという観点での利用促進を図る。共同での事業の取り組みなどは、今後の課題として協議していきたい。
	15	○子どもたちの教育等においても、両市町の社会教育施設を利用した新しい連携事業も考えられるのではないかと。【第2回】松井副座長	○夏冬休み等における施設や自然環境を活かした連携事業の可能性について両市町で協議する。既存の各種事業の対象範囲の拡大も考えられる。
	16	○子どもにも大人にも教育の機会を広げる事項を、両市町でもっと話し合っていくことが凄く重要になってくる。【第2回】田中座長	○両市町で行われる芸術文化や講演、講座等の事業については、情報を共有しながら相互に参加の受入を行っている。今後もなお一層の連携を意識しながら参加機会の提供や広報に努める。
	17	○両市町単独の施設を共同で相互に活用することにより、相乗効果が出てくることも、今後考えていかなければならないのではないかと。【第2回】田中座長	○各々の社会教育施設条例・規則を尊重しながら、両市町の利用者の利便が図られるよう、施設管理担当者の情報交換（空き情報やイベント情報等）に努める。
	18	○大空町の体育施設の一部には、町外者用の料金設定がされているものがあるので、今後事業を進めていくうえで考えていく必要があるのではないかと。【第2回】首野委員	○各種施設の料金設定については、それぞれの自治体の実情に合わせて、それぞれの基準により料金設定されていることから、現状のままで推移したい。なお、現状においても、公的事業に関しては、両市町とも減免措置の制度を設けている。
環境	19	○川に親しむ親水性促進のための事業が、重要になってくるのではないかと。【第2回】田中座長 ○両市町の子供たちが一緒になってカヌー下りなどの取組ができれば素晴らしい。【第2回】小林委員 ○過去にも親水のイベントはいろいろ実施されてきたが、継続されずに単発で終わっている。【第2回】松井副座長	○親水性の事業は、カヌーによる網走川の川下りや網走湖におけるカヌー体験など、両市町で継続して実施している。今後、合同実施できる事業の可能性について両市町で協議する。
	20	○ごみ処理は重点項目として、いろいろな意見を集める仕組みも併せて考えた方が良いのではないかと。【第2回】田中座長	○両市町とも、計画の見直し並びに処理施設の整備に対する方向性については、有識者による検討や広く市民の意見を聞くことができる組織づくりも必要であることを認識している。 ○今後は、お互いの方向性を整理した時点で、具体的に広域での取組内容を検討していくこととするが、両市町それぞれ施設の使用年限に差異のあることが大きな問題点であり、当面は将来的な構想の整理ということとなる。
福祉	21	○両市町間を移動する利用者の送迎を、両市町のボランティアが情報を共有し、連携が図られるのではないかと。【第1回】和田委員	○ボランティアによる送迎については、移動時の事故の問題やガソリン代などの実費負担などの利用料金を徴収する際には、一般乗用旅客自動車運送事業の許可が必要となることから、ボランティアの移送は、特別な理由以外には行われていないのが現状。 ○両市町では、障がいのある方の移動は、公共交通や福祉タクシー、一般乗用旅客自動車運送事業の許可を取得した交通機関を利用していただくこととしており、障がい者、高齢者に対しては、利用する交通機関の限定は、市町で異なるが、社会参加などための交通費助成を行っている。
	22	○以前から、保育所の広域入所や子育て支援センターの広域利用が行われている。これを契機に、福祉サービスの分野での連携を考えていきたい。【第1回】清水委員	○障がい者や高齢者の福祉サービスについては、障がい者自立支援法や介護保険法により、どこでも福祉サービスを利用することが可能となっており、圏域住民が広域的に利用しています。 ○また、単独事業で実施している発達支援センターなど、大空町民が利用している状況にあり、今後とも、情報交換を行い広域利用の推進を図っていききたいと思う。
	23	○障がい者や高齢者に対する具体的な事業が少ないので、来年度に向けた具体的取組を今後検討する必要がある。【第3回】和田委員	○障がい者や高齢者に対する事業については、障がい者自立支援法や介護保険法などにより、福祉サービスを提供しているが、今後も、圏域住民のニーズを把握し、両市町が連携しながら障がい者や高齢者の新たな事業を検討して、生きがいのあるまちづくりの促進を図って行きたいと思う。
	24	○子育て、障がい者、高齢者というカテゴリーの違うものを、一つの事業にまとめてしまうと、後々整理がしづらくなるので分けた方がよい。【第3回】清水委員	○24年度のビジョン見直しの際に、取組体系のバランスを考慮しながら、事業の細分化について検討したい。
産業振興	25	○両漁協と津別町農協の3者で取り組んでいる「網走川流域における農業と漁業の持続的発展に向けた共同宣言」を、ゆくゆくは大空町や美幌町にも広げていきたいと考えている。ついでに、農業も漁業と同様に産業としてひと括りに考えてもらいたい。【第1回】佐々木委員	○行政間での連携については、農業行政の様々な分野で連携は可能であるが、農協を含めた広域連携になると、具体的な共通の目的、利益がないと難しく、また、農協合併が破談になった経過もある。
	26	○課題は、一次産業の方と地域で付加価値をどう高めていくかということ。【第1回】尾崎委員	○お互いの産業について理解を深めながら、地域資源を活用した新製品の創出などの取組について、相互の施設の活用など、効果的な協力体制を検討していく。
	27	○既存の技術や製品などを何かの形でフォローできる制度（地産地消や地元調達など）を、将来的にビジョンに載せていければと考えている。【第3回】松井副座長	○両市町の特産品の把握をしながら、地元産品の販売や製品改良に関する効果的なフォローアップについて検討していく。

網走市大空町定住自立圏共生ビジョン懇談会「意見等要旨及び考え方」

分野	No.	意見等要旨	両市町の考え方
地域公共交通	28	○網走バスが負担している郊外路線バスの赤字分は全体で年間2000万円以上あり、この点も含めて将来的に議論していただきたい。【第3回】我妻委員	○将来的な公共交通路線のあり方について、両市町の課題を把握しながら検討していく。
	29	○自家用車に依存し過ぎている状況の中で将来、公共交通と呼ばれるものは市内線の一部を除いてなくなることも視野に入れなければならない。 ○車社会で人は点から点の移動のみになるので、街には人が歩かない、活気のない街になる。ラルズマートがなくなって、更にひどい状況になっている。まちづくりを含めて、住民啓発的なことも必要ではないか。【第3回】我妻委員	○将来的な公共交通路線のあり方について、両市町の課題を把握しながら検討していく。
	30	○まちづくりという一つの大きな枠の中で、あらゆる分野が有機的に積み上げていかなければ、交通機関だけを工夫しても成り立たない。【第3回】田中委員長	○将来的な公共交通路線のあり方の検討にあたっては、医療、環境、福祉、観光、商業など様々な分野との連携を視野に入れながら検討を進めていく。
	31	○網走～東藻琴間のバス賃が高過ぎて、家計に大きな負担となっている中で、「定住しろ」と言っても非常に厳しい状況にある。 ○網走で一年を通してイベントが行われているが、東藻琴の人は足がないから行けない。交流人口が増える訳がない。【第3回】菅野委員	○交通弱者対策（通院、通学、買い物等）として、それぞれの既存分野における制度を活用するなど、総合的な検討が必要であると考える。【大空町】
	32	○東藻琴の40%以上の人は、網走よりも近い美幌へ買い物に行っている。こういった実態をもっと掘り下げていかなければ、網走市と大空町の共存共栄はできないのではないかと。【第3回】菅野委員	○交通弱者対策（通院、通学、買い物等）として、それぞれの既存分野における制度を活用するなど、総合的な検討が必要であると考える。【大空町】
人材育成	33	○特に両市町の職員が交流や情報交換できる場を積極的に作っていくべき。ただ「一緒に勉強しよう」ということでなく、いろんな取組について「一緒に考えよう」という仕組みづくりができれば。【第2回】小林委員	○予算要求前に研修事務担当者レベルで両市町の研修計画の情報共有を図る。 ○共同開催が可能な研修メニューを洗い出し、新たな財政負担を生じない範囲内で共同開催の実施を図る。
その他	34	○両市町の様々なイベントで、地元産品のPRが行われている。付加価値を高めるためにも宣伝事業は非常に重要であると考えているが、人員や経費の面で負担もあることから、両市町が連携して効率的な宣伝事業が行われればと期待している。【第1回】佐々木委員	○圏域の中でイベントの日程調整等、相互連携が必要だと考える。今後こうした情報共有を行える取組を考えていくことが必要。
	35	○企業も含めて地域が子育て支援をしっかりと、地域の人口が減らないようにする。地域の活性化を高め、豊かな地域に育てていく取組を広げていくことが課題。【第1回】我妻委員	○現在、保育所における広域入所及び児童デイサービス事業については、今後とも継続していく必要がある事業である。 ○今後、両市町で連携して行える事業の一つとして、子育て支援センターがある。これは、両市町に施設が設置されており、お互いの住民が施設を相互利用することが考えられる。また、将来的には子育てミニ講演会、育児教室、相談事業などの共同開催も考えられる。 ○次に、子育てサポート事業（ファミリーサポート事業）の相互利用も考えられるが、事故があった時の責任の所在など、課題もある。 ○婦人相談事業では、網走市では女性相談員を配置し、相談事業を行っているが、大空町では相談員が配置されていないため連携は難しいが、世間体を気にして地元での相談を躊躇する住民も存在する。（例：網走市における消費者協会への相談のうち2割程度が他の町の住民からの相談） ○子育てをしやすい環境づくりは、全自治体の共通した課題であり、今後とも検討していく必要がある。
	36	○観光であれば、情報を発信しなければ集客ができない。医療現場の状況も、情報を発信することにより、住民に気づいてもらえる。情報の発信が重要である。【第1回】加藤委員	○情報発信の重要性については充分認識しており、網走市ではフェイスブックやツイッターなどを活用した双方向性の情報発信にも取り組んでおり、今後も広報広聴機能の強化に努めていきたい。
	37	○行政側からもっと情報提供がされれば、その情報を活用して、自分達の地域活動を行っていただける。【第1回】河原委員	○イベントや地域行事に積極的に参加するなど、あらゆる機会を通じて住民との意見交換に努めていきたい。
	38	○医療、観光、公共交通などに限らず、どの分野でも情報が双方に理解されていることが重要である。【第3回】田中座長	○必要な情報を分かりやすく、タイムリーに伝えることができる広報広聴のあり方を工夫していきたい。
	39	○医療、観光、公共交通に限らず、どの分野においても、いくつかの組織はあるけど連携がとれていない。もっとシンプルに結集する仕組みが作られていかなければいけない。【第3回】田中座長	○組織にはそれぞれの設置意義や背景があるため、組織間の連携を強化する取組が必要と考えている。
	40	○その地域に住む人、来る人のために、如何に交通機関を維持するか、観光も如何に地元で付加価値を高めるために行動するかが重要である。 ○先進地の事例がこの地域でどれだけ対応できるかも含めて、この懇談会で協議し、網走市と大空町が女満別空港という拠点を持ちながら進めていく方向が見い出せればと考えている。【第3回】中川委員	○空港や駅等への連絡路線の維持は、必要不可欠である。また、北海道観光の課題でもある地域間交通（二次交通）については、積極的な検討が必要がある。 ○両市町が加入している、より広域的な女満別空港国際チャーター便誘致協議会や女満別空港整備・利用促進協議会の中での協議を進めていく。
	41	○雇用の場を確立することが、定住に関しては特に重要になる。生活の糧が確立しているという前提であれば、網走は日本一住みやすいところ。【第3回】加藤委員	○企業誘致や新産業創出について、両市町の情報交換などを進めながら、雇用創出に向けた取組を推進していく。
	42	○網走の地名や網走番外地の映画を知らない人が最近増えてきている。網走の地名の認知度を維持していく努力が必要ではないか。【第3回】小林委員	○知名度を高めるにはメディアに取り上げられることが効果的であることから、圏域内でのテレビ、映画撮影等については、積極的に協力していく姿勢が必要である。網走市では、映画撮影地の看板設置やマップ作りも行っている。今後も継続して取り組む予定。
	43	○今後の課題としては、事業終了後に互いの地域が自立して定住できる共生ビジョンづくりの試金石にもなることから、連携から集約あるいは一体的に運営できるものは何か、今後5年間の共生ビジョンづくりの中で一層探っていかなければならないことだと考える。【第3回】尾崎委員	○ビジョンの具体的な取組を通して両市町の連携が図られるよう、今後も新たな連携について検討していきたい。

網走市大空町定住自立圏共生ビジョン懇談会「意見等要旨及び考え方」

大空町定住自立圏形成協定調査特別委員会「意見要旨及び考え方」

分野	No.	意見等要旨	両市町の考え方
教育	44	○教育については、生涯学習や社会教育ばかりではなく、大空町のおかれている状況から、高校問題などについても検討していくことが意義ある定住自立圏構想となるので十分再考する必要がある。【第1回】	○高校問題については、道教委の「公立高等学校配置計画地域別検討協議会」の中でも議論されているが、網走市から大空町内の高校に進学する生徒も多いことから、今後必要に応じ、両市町間で協議していきたい。
地域公共交通	45	○東藻琴地区では公共交通機関による移動手段の確保が大きな課題であると思う。【第2回】	○地域交通については、合併当時から利便性を考慮した地域間バスはあるが、まだまだ満足できていないものではない。特に高齢者の移動手段の確保は行政だけではなく、民間バス事業者も含めて、総合的に考えていかなければならない問題。国に対しても定住自立圏をPRしながら支援を要請したいし、他の十分ではない諸々課題を当構想に乗せながら拡充してまいりたい。【大空町】
懇談会	46	○懇談会委員名簿においても農業関係の委員が含まれていないが、何か意味があるのか。【第1回】 ○何を考えて委員を選任したか問われることになる。網走漁協、西網走漁協の役員が入っているのに、大空町の場合、女満別農協とオホーツク網走農協があるにも拘らず選任されていない。農業は大空町にとって基幹産業であるのだから、勘違いもいいたところである。【第1回】 ○構成委員が20名以内となっており、2名の枠がある。何故このようになったのか疑問である。【第1回】	○両農協に対する懇談会への参加要請は行いが、農協合併が破談した経過もあり、具体的な協議内容がない中での参加は難しいと考える。(オホーツク網走農協営農部長の話) ○行政間で、6次産業化や様々な連携を検討する中で、両農協とも連携について協議をしていく。
その他	47	○社会教育施設のみならず、連携した取組を進めるに当たって、施設利用料の公平性がなければ話し合いの土台に乗らないのではないか。【第2回】	○各種施設の料金設定については、それぞれの自治体の実情に合わせて、それぞれの基準により料金設定されていることから、現状のまま推移したい。
	48	○定住自立圏という概念はまだまだ住民に浸透していないが、例えば、網走市には全国的に有力なラグビーチームが合宿に来ており、スクールバスを利用して圏域の子供たちに練習の様子を見学させたり、チームに大空町の施設を使ってもらおうといった、互いに交流している姿を住民に見せることができれば、理解も一層深まるのではないか。【第2回】	○合宿チームの練習風景の見学等については、両市町で情報交換を図りながら検討していきたい。

網走市総務文教委員会「意見要旨及び考え方」

分野	No.	意見等要旨	両市町の考え方
その他	49	○合宿誘致の取組みは、教育や観光の分野だけでなく、両分野が入れるように「取組の体系」の中に位置づけるべきだと思うので、要望する。	○合宿誘致に関連する取組について、両市町で協議しながら今後検討していきたい。
	50	○あらゆる世代の交流を深めることも必要だと思うので、「共に発展するんだ」という意識をお互いに持つような働きかけをしていただきたい。	○圏域住民の意識の共有化が図られるよう、連携事業を推進するとともに情報の共有化に努めていきたい。